
終りの始まり

加藤アガシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終りの始まり

【Nコード】

N1346H

【作者名】

加藤アガシ

【あらすじ】

ペータは鏡の中にいる男に話しかけた。

「こんにちは。」

ペータは鏡の中にいる自分そっくりの人に話しかけた。

「こんにちは。」

一秒も経たずに、鏡の中の彼は答えた。

声までペータそっくりだ。

ペータは話相手ができたのが、うれしくてうれしくて、一年中、彼に向って話かけてた。

そんなある日、鏡の中の男にうんざりしたペーターは、ついに怒った。

「おい！君？僕のマネばかりしてちゃ、会話にならないじゃないか？たまには、なんか自分から話せよ！」

「……。」

鏡の中の彼は相変わらず、一秒も経たずうちにペータのマネをする
と、あとは黙ったままだった。

「おい……。」

ペータはそう怒鳴ると、思いつき鏡の男めがけて、拳を放った。
その瞬間だった。

鏡の中の男もこちらにめがけて殴りかかってきた。

お互いの拳はちょうど鏡をはさんで相撃ちとなった。
ケンカ慣れしていないペータの拳に痛みが走る。
鏡の中の男はなかなかのパンチ力だ。

「この野郎!!」

ペータは鏡の中の男に向かって、もう一度拳を放った。

だが、今度は男はマネして殴ってこなかった。

その代り、鏡の中から男は手を伸ばすと、ペータのパンチを止め、
強く腕をつかんだ。

『交代だ。』

そういうと男は、ペータをものすごい力で鏡の中に引きずりこんだ。

「うわ!!」

ペータが抵抗する間らなかった。

気がつくとペータは鏡の中に、男は鏡の外にいた。

男は、鏡の中のペータを見ると、ニヤッと笑い、鏡の前から離れていった。

そうして、ペータの終りが始まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1346h/>

終りの始まり

2010年10月11日04時33分発行